

令和5年度周南市子ども育成支援対策審議会(第7期第3回)会議録

日 時	令和6年3月18日(月) 15時00分～16時30分
場 所	周南市本庁舎5階 委員会室3
議 事	<p>議題</p> <ol style="list-style-type: none"> 第3期周南市子ども・子育て支援事業計画策定に係る子ども・子育てニーズ調査の結果について 特定教育・保育施設の利用定員の変更について
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ● 委員10名 ※会議成立(欠席:秋重委員、倉益委員) 竹下会長、兼重副会長、金子委員、木村委員、田中委員、河村委員、大野委員、小林委員、加村委員、山本委員 ● 事務局10名 子ども・福祉部子ども局 穴田局長 次世代政策課:綿野課長、徳田課長補佐、高木係長、岩岡主査 子ども支援課:伊上課長、石田課長補佐、有福課長補佐 あんしん子育て室:柿並室長、宮崎課長補佐 学校教育課:原田課長 生涯学習課:川上課長 ● 調査業務受託事業者:一般財団法人山口経済研究所(3名)

<p>議題 第3期周南市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の結果について</p>	
<p>資料</p> <p>第3期周南市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の概要(以下「資料1」という。)</p> <p>ニーズ調査結果の概要(以下「資料2-1」という。)</p> <p>ニーズ調査を踏まえた現時点での課題(以下「資料2-2」という。)</p>	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	<p>次世代政策課</p> <p>資料1に基づき、ニーズ調査の概要(調査目的、調査対象、調査方法等)について説明。</p>
○委員	質疑なし。

□事務局	<p>山口経済研究所</p> <p>資料2-1に基づき、ニーズ調査結果の概要について説明。 資料2-2に基づき、ニーズ調査を踏まえた現時点での課題について説明。</p>
○委員	<p>膨大な量のアンケートをまとめていただき、ありがたい。 課題として「子どもの遊び場の充実」を挙げていたが、周南市内には公園等が結構多いと認識している。アンケートでは「雨の日に遊べる場所がない」の回答が多かったが、具体的にどういった遊び場に対するニーズが高いのか。</p>
□事務局	<p>山口経済研究所</p> <p>選択肢だけでは分からないが、自由回答に具体的な記述があったと思う。本日は手元にないが、例えば、下関市の競艇場にある、雨の日でも遊べる施設「Moovvi 下関」を挙げる回答があったと記憶している。公的な施設だけでなく民間施設のニーズもあるかもしれないので、自由回答を確認・分析した上で共有する。</p>
○委員	<p>保育所や幼稚園等に関して、国の制度では「特定教育・保育」とされているが、結果の記載が保育所と認定こども園に特化しすぎている感がある。前回の審議会でアンケート案をご提示いただいた際には、「幼稚園の利用を強く希望するか」との質問があり、幼稚園にも配慮した内容だったと思う。どういった形でアンケートに反映したのか。また、幼稚園に関する具体的な要望があったのか教えていただきたい。</p>
□事務局	<p>山口経済研究所</p> <p>本日の資料には掲載していないが、就学前児童保護者に対して、「特に幼稚園の利用を強く希望しますか」という質問をしている。65%が「はい」、35%が「いいえ」と回答しており、幼稚園利用を希望する人の方が多い結果となっている。</p>
○委員	<p>集計結果を子どもの年齢別に分析することは可能なのか。</p>
□事務局	<p>山口経済研究所</p> <p>年齢別の分析（クロス集計）は可能であり、結果を共有する。</p>
○委員	<p>自由回答やグループインタビューの結果の活用方法を教えてほしい。</p>
□事務局	<p>山口経済研究所</p> <p>自由回答については、テキストマイニングという手法を使って分析する予定で、分析結果を共有する。グループインタビューについては、3月に4ヶ所で開催した。対象先は、中学校野球部員（男子）、その他部活動の部員（女子）、テニスクラブの男女（中学生）、高校2年生の男女である。中学生には放課後の過ごし方を尋ねた。また、高校生</p>

	には「放課後や休日に周南市のまちづくりに関わるとしたら、どのような分野・内容に関心があるか」などを尋ねた。グループインタビューについても、結果を整理して共有する。
○委員	自由回答やグループインタビューは、分析結果を別途まとめて公表するのか、それとも、今回の課題抽出の裏付け資料として活用するのか、お聞きしたい。
□事務局	次世代政策課 グループインタビューは個別に報告書をまとめる形になると思うが、自由回答はアンケート調査の報告書において、概要をまとめる形で掲載する予定である。
○委員	アンケート結果は、実態や課題が整理され、非常に分かりやすいと感じた。この結果を今後の計画策定にどのように落とし込んでいくのか、ポイントを教えてほしい。
□事務局	山口経済研究所 本日ご説明したのはあくまでアンケート結果だけであり、今後、統計データ等による現状分析も踏まえた上で、課題の抽出、いわゆる「量の見込み」の推計等を行う。これらの結果を踏まえながら、委員の皆様のご意見を頂戴し、計画素案づくりを進めていく。
○委員	熊毛地区には下松市や周南市のように大きな公園はなく、団地内の公園しかない。遊具が老朽化したり腐食したりして、閉鎖された公園が2、3ヶ所あり、老朽化に関しては地域政策課の方に対応を要望している。こうした公園の管理運営の方針を知りたい。
□事務局	次世代政策課 公園の所管部署については、都市公園だと都市政策課、児童公園だと公園花とみどり課である。各公園の管理・運営や遊具の新設・増設は、地域住民の方のご意向を聞きながら進めている。公園に関しては、アンケートの自由回答に関連の記述があれば共有する。
○委員	29～33 ページに満足度・重要度に係る項目を掲載しており、今回は課題抽出のため「重要度が高く、満足度が低い」項目について整理していたが、これと同じ形式で、第2期計画の成果を振り返るため「重要度が高く、満足度が高い」との項目を整理してほしい。「周南市にいるからこそ、こういった点がよかった」と市民が感じている成功例を、次の計画に活かしていくと良いと思うので、是非お願いしたい。
□事務局	山口経済研究所 承知した。

□事務局	次世代政策課 「令和6年度 周南市第3期子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール」について説明。
○委員	質疑なし。
議題（2）特定教育・保育施設の利用定員の変更について	
資料 特定教育・保育施設の利用定員の変更について（以下「資料3」という。）	
◎会長	議題の件について、事務局から説明をお願いします
□事務局	こども支援課 資料3に基づき、特定教育・保育施設の利用定員の変更（対象施設及び利用定員の変更内容）について説明。
○委員	質疑なし。
報告（1）組織改編について	
資料 組織改編について（以下「資料4」という。）	
◎会長	報告（1）について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	次世代政策課 資料3に基づき、こども局の組織改編について説明。
○委員	「こども局」から「こども未来部」へ、局から部が変わり、あんしん子育て室があんしん子育て推進課へ、室から課へ変わるとのことだが、局、部、室、課とあり、何がどのように具体的に変わるのかを教えてください。
□事務局	こども局長 これまで、「こども・福祉部」の中に「こども局」として子ども部門を設置していたが、この「こども局」を「こども未来部」とする組織改編をさせていただいた。 この組織改編に際し、業務等の整理をし、より効率的・効果的に事業を実施していけるよう、各課の担当業務の見直しを行った。室であるか、課であるかということについては、これまでも室にも課長相当職がおり、大きな違いはないが、室を課という位置付けとした。
○委員	組織の体制や名称の変更について、また、どの部がどのような役割を担うかというような情報を市民の方にどのように発信していくのか。

□事務局	こども局長 市の組織の変更等は、条例の改正を伴うため、議会に議案を提出し、議決を経た後、新しい組織が設置されることとなる。この度の組織改編は、4月の市広報等で市民の皆様にお知らせをさせていただくことになる。
○委員	今回の組織改変に伴って、担当部署の場所の変更等があるか。
□事務局	次世代政策課 「こども未来部」の「子育て給付課」と「子ども保育課」についてはそれぞれ本庁舎1階にある現在の「次世代政策課」と「子ども支援課」がある場所に残る形になる。 「次世代政策課」の業務のうち、当審議会の事務局や、こどもまんなか社会推進に関する取組などの「企画担当」の業務については、「あんしん子育て推進課 こども政策担当」の業務となり、徳山保健センターの2階に移転することとなる。
報告（2）令和6年度の主要事業について	
資料	
令和6年度周南市予算説明参考資料（抜粋）（以下「資料5」という。）	
◎会長	報告（2）について、事務局から説明をお願いします。
□事務局	次世代政策課 子どもの明るい未来サポート事業、乳幼児医療費助成事業、こども医療費助成事業、について説明。
○委員	質疑なし。
□事務局	こども支援課 障害児保育事業、保育所再編整備事業、保育対策総合支援事業について説明。
○委員	保育対策総合支援事業のスポット支援員について説明をお願いしたい。
□事務局	こども支援課 スポット支援員というのは、特に朝夕など保育士の目が行き届かないような時間帯や夏場のプールなど行事の際に、保育士の負担軽減を図るためにスポット的に配置する支援員のことである。
○委員	障害児保育事業についてですが、保育園に在籍されている、障害のある子どもは何人くらいいるか。 また、今後も障害児保育を担う保育士を増やしていきたいとの考えのようだが、どの程度増やせるのか。

□事務局	<p>こども支援課</p> <p>現在、公立保育園で受け入れている障害児のは令和5年度末見込みで136名。私立保育園については、補助対象としてですが、48名。令和4年度は、公立保育園で83名の障害児を受け入れているが、年々支援を要する子どもが増加傾向にあるため、それに対応するための保育士等の配置に係る人件費を増額していくことを考えている。</p>
○委員	<p>障害児保育事業について、「私立保育所等の障害児保育を担う保育士の雇用に必要な経費の補助を拡充」とあるが、具体的にはどのような拡充か。</p>
□事務局	<p>こども支援課</p> <p>療育手帳等を持っている子どもや手帳を持っていない（診断がついていない）が、支援を要する子どもを保育する保育士の雇用に必要な経費の補助について、これまでは、月額2万9720円であったが、これを月額6万5300円に拡充するという内容である。</p> <p>この拡充の金額の根拠については、こども園等に対する同様の補助事業に合わせる形とした。</p>
□事務局	<p>あんしん子育て室</p> <p>地域子育て支援拠点事業、ファミリーサポートセンター運営事業、こども家庭センター事業について説明。</p>
○委員	<p>地域子育て支援拠点事業の説明の中で、土曜日の開所を増やしていくことで父親の育児参加を促していくということだが、子育て支援センターの現時点の父親の参加状況について、例えば以前よりも増えてきた、などの動向があれば教えていただきたい。</p>
□事務局	<p>あんしん子育て室</p> <p>父親の参加を促すために、土曜日の開所と合わせて、ソフト面の充実を図るため、昨年くらいから、これから父親になる人を対象に沐浴体験などを始め、参加しやすい環境づくりに努めている。</p> <p>土曜日の開所に伴い、父親の参加も徐々に増えてきており、来年度、更に土曜日の開所日を増やすことで、より父親が参加しやすい環境を作っていきたいと考えている。</p>
○委員	<p>父親の育児参加が促されると、虐待などの発生率が低下することも今分かってきているところだが、更に父親の仕事のパフォーマンスも上がっていくと行くような研究結果も出てきているので、このような取り組みが益々活性化するといいなと考え質問させていただいた。</p> <p>それともう1点、こども家庭センターについて、今後新しく専門職の配置の予定などはあるか。</p>

□事務局	<p>あんしん子育て室</p> <p>本市においては現在既に、多くの専門職が配置されているが、今回法定化された中で、「子供家庭ソーシャルワーカー」や「統括支援員」など国が示す役割や資格について、具体的に必要な研修内容等がまだ示されていない。令和6年度におそらく徐々に国から示されると思う。</p> <p>既存の専門職がこういった形でその資格を取得していくのか、計画的に考えていきたい。</p>
○委員	<p>「子供家庭ソーシャルワーカー」などの資格取得について、周南公立大学でも、最新の情報を集めようとしている。市と情報を共有させていただきながら進めていきたいと考えるので、よろしく願いしたい。</p>
□事務局	<p>学校教育課</p> <p>民間施設活用実証研究事業、部活動改革推進事業について説明。</p>
○委員	<p>部活動の地域移行について、親はすごく不安であると思う。今までは部活動に入るのが義務のようになっており、全員部活動を行うのが当たり前のような教育をされてきたが、地域移行となって、親の負担が結構ある。例えば親が忙しくて送迎できないが学校以外の場所に行かないと活動できないというような課題に市はどのように取り組んでいくのか。</p>
□事務局	<p>学校教育課</p> <p>確かに学校で部活動していれば費用も時間もかからず、効率的であるということはおっしゃるとおりと思う。ただ、現状、学校の生徒数が減少してきているため、選べる部活動の種類が限られている現状はもう拭えないところである。このような状況の中、子どもたちが本当にやりたいことを自分で選ぶことができるのか、ということに私たちは課題を持っている。これを解決するために、周南市全市を挙げて部活動について、様々な場所で様々な活動ができるということを目指している。確かに、移動にかかる時間、また費用が保護者の負担となるという課題は今、私どもも認識をしている。</p> <p>保護者の負担について、補助なども含めて今専門部会で協議をしているところである。</p>
○委員	<p>親が安心できるような回答をぜひこれからもしていただきたいと思う。よろしく願いしたい。</p>

○委員	民間プールの活用について、プールが老朽化しているのを直すよりも、こういった施設を利用した方がいいというのは財政面から考えて有効な手立てだと思う。ただ、今、学校の授業時間数がかなりひっ迫しているように思うので、民間プールへの移動時間などをひねり出すことができるのか、少し不安に思っているが、このような点について、何かお考えがあればお聞きかせいただきたい。
□事務局	学校教育課 現在、候補となる学校とも打ち合わせをしているが、おそらく必要となる時数はこれまでよりも増える。他の授業を圧迫するようなことがないのかなど、しっかり検証していきたい。 このような中、文部科学省が標準的な学習すべき時数はあくまでも標準であって、それが必ずしも基準とか達成すべきものではない。その辺も含めて授業時数また必要な時数については検討していきたいと思っている。
□事務局	生涯学習課 児童クラブ事業について説明。
○委員	質疑なし。
◎会長	全体を通して委員の皆様からご意見ご質問等があればよろしくお願ひしたい。
○委員	地域型保育について、私の認識では現行0歳から2歳までで3歳から保育所に移ることが多いのかなと思っているが、国がその年齢を上げていくというような話が出ていたように思うのだが、今のところはこの年齢を上げていく予定はないか。
□事務局	こども支援課 今のところそういった情報は特に持っていないが、地域型保育施設については、必ずしも2歳までというわけではなく、事業所内保育施設については2歳以上の子どもも保育していることもある。 基本的には、3歳未満の子どもの受入れ先とはなっているが、場合によっては3歳以上の子どもの受け入れも可能とはなっている。
◎会長	質疑を終了する。
□事務局	次世代政策課 熱心なご審議で貴重なご意見をいただいた。来年度も引き続きご協力をよろしくお願ひしたい。